

古代の人々にとって、神々はどのような存在だったのであろうか。特に、神祇信仰は古典文芸の中でどのように描かれ、変貌していくのであろうか。

日本の古典文芸テキストの中には、様々な形で神仏への信仰が描かれている。これまで各文芸テキストにおける神々の研究は進められてきたが、古代から中世までの時間軸を中心に設定したうえで、文芸テキストに現れた神々の変貌の問題について取り上げるものは殆んどなかった。そこで、本書『変貌する日本の神々——古代・中世文芸を中心に——』は、日本古典文学研究と日本宗教研究という学際的立場に立ち、日本の上代・平安・中世の文芸テキストの中で神々の言説がどのように変貌しているかを問い、それぞれのテキストの中で神々が具体的にどのように描写されているのか、また、個々のテキストにおける神々の役割と位置はどのようなものを考察する。筆者は、東京大学の博士論文『源氏物語』における神祇信仰』（二〇〇六年七月）以来、「物語文学と神々の変貌」について研究してきた。それは、従来、日本古典文学における神々についての研究が、「特集 物語・日記文学にみる信仰」「国文学 解釈と鑑賞」第五七卷第一二号（至文堂、一九九二年二月）、「古典文学と信仰」「国文学 解釈と鑑賞」第六五卷第一〇号（至文堂、二〇〇〇年一月）という雑誌の特集があるくらいで、依然として未開拓のままであるという現状による。

加えて、これらの雑誌にしても、古典文学に登場する神々の様相を紹介する程度であり、古代から中世までの文芸テキストの中で、神々の性格や当時の社会における神祇信仰の意味がどのように描写されているのか、また、

古典文芸における神祇信仰の役割とはどのようなものか、それがどのように変貌していくのか、という問題まで踏み込んだものではない。そこで、これまでの研究において殆んど取り上げられてこなかった文芸テキストと神々の変貌を中心に、神々への信仰が文芸の構造や手法として、いかに取り入れられているかということを考察し、具体的にはどのように変貌していくかを明らかにするとともに研究の意義があると思われる。

具体的な研究方法としては、全体的・通時的な視点から文芸テキストに現れた、古代から中世まで持続・変貌する神々の様相を解明することに焦点を合わせつつ、その中でも特に、その変貌の様相が確認できる資料を収集・集合・整理し、これまで行われてきた研究成果を検討し、これに基づいて〈住吉神の変貌〉〈賀茂神の変貌〉〈伊勢神の変貌〉〈八幡神の変貌〉〈春日神の変貌〉〈天神の変貌〉の六編に分けて考察する。

第一編「住吉神の変貌」では、まず、『古事記』『風土記』『日本書紀』『住吉大社神代記』などに見られる住吉神の性格を考察する。「大神」「天神」として尊崇され、元来膽駒山に天降った土地神であった住吉神が、住吉に鎮座する経緯において、自ら「便ち因りて往来船を看さむ」との託宣を通じて海路を守る神としての性格を示し、実際にそのように信仰されていく過程を詳述する。また、『住吉物語』『源氏物語』などの平安物語や、長門本『平家物語』、『一寸法師』『酒吞童子』などのお伽草子に現れた住吉神について考察することにより、土地神・海路を守る神・王権の守護神・現人神としての神格を持っていた住吉神が、お伽草子において、子授けの神・一門末繁盛の神・現人神・軍の神・慈悲の神・再会の神・恋愛の神といった現世利益を求める信仰の対象として変貌していくことを論じる。

第二編「賀茂神の変貌」では、『風土記』逸文「山城国」において天降った神として現れた賀茂神について検討する。この賀茂神は、『先代旧事本紀』巻六「皇孫本紀」において八咫鳥と同一視され、皇統の神としての神格を帯びているが、『源氏物語』『落窪物語』『うつほ物語』『狭衣物語』などにおいてはどのように描写されているか、また、賀茂信仰が時代の推移と共にどのように変貌していくかを考察する。さらに、覚一本・延慶本『平家物語』や『源平盛衰記』など、各テキスト独自の賀茂神関係記事を中心にその機能と変貌の様相がどのように描かれているかを考察する。

第三編「伊勢神の変貌」では、『古事記』上巻において「大御神」という最高神として登場している伊勢神が、『日本書紀』においては日神（ヒルメの神）としてその神格を現し、また、天孫降臨においては、皇祖神としての神威を現しており、まずこのような『古事記』『日本書紀』に現れた伊勢神について考察する。そして、『狭衣物語』や覚一本・延慶本『平家物語』、『源平盛衰記』ではどのように描かれているか、その機能を軸にして考察を進めていきたい。

第四編「八幡神の変貌」では、貞観元年（八五九）大安寺僧行教によって宇佐から勧請されたと言われている石清水八幡宮を中心に考察する。『石清水遷座縁記』などの石清水八幡宮の縁起を見ると、当初から惟仁親王（清和天皇）の外戚、藤原良房が幼い皇子を天皇位に即けることを祈念して創始されたことから、皇室の石清水信仰とは、皇位継承を守護する神として崇められるものとなるが、『源氏物語』において八幡神が、玉鬘に關わる神として登場していることに着目して詳述する。さらに、『石清水物語』において主人公の伊予守と父関白の夢に現れて託宣を下す神として登場する石清水八幡宮がどのように変貌していくかを考察する。また、延慶本『平家物語』における源頼朝に關わる八幡大菩薩の記事を中心に、源氏の氏神としての八幡神がどのように描写されているかを考察し、さらに『とはすがたり』『増鏡』においてはどのように登場しているかについても詳述する。

第五編「春日神の変貌」では、『延喜式』に「春日祭神四座」と明記されている春日社の神々に目を向ける。春日神は、『日本書紀』の中では藤原氏の氏神としての神威を現しているが、『続日本紀』『続日本後記』においては、春日神が遣唐使の行路や海路安全の祈願の対象となっている。このような、藤原氏の氏神である春日神の変貌について詳述する。さらに、『うつほ物語』や『源氏物語』に現れた春日神を考察するとともに、延慶二年(二三〇九)左大臣藤原公衡を願主として藤原一門によって編述された『春日権現験記繪』に語られる数々の春日神の神威について詳しく分析する。

第六編「天神の変貌」では、『道賢上人冥途記』に「日本太政威徳天」として登場する菅原道真が、『菅家御伝記』において「天満大自在天」という神に変貌し、そして『本朝文粹』において詩文の神として崇められていることについて考察する。さらに、京都の北野天満宮(古くは北野宮・北野社・北野宮寺などを称した)の由緒を、特に菅原道真が神として祀られていった過程を中心に記述した縁起である『北野天神縁起』に注目し、特にその託宣と利益の場面において天神はどのように描かれているか、また、覚一本・延慶本『平家物語』『源平盛衰記』においてはどのような変貌の様相を呈しているかを詳述する。

以上、第一編から第六編まで六神を取り上げ、古代・中世文芸に現れたそれぞれの信仰の変貌の実態を明らかにしていきたい。

## 目次

まえがき	i
凡例	xxiii
第一編 住吉神の変貌	1
第一章 上代文芸に現れた住吉神	3
第一節 「大神」・「天神」・「禊ぎ祓いの神」	3
第二節 土地神	4
第三節 海路を守る神	8
第四節 王権の守護神	14
第五節 現人神	16

第二章 平安文芸に現れた住吉神	19
第一節 『住吉物語』に現れた住吉神——現人神	19
第二節 『源氏物語』に現れた住吉神——土地神・海路を守る神・王権の守護神	22
1 土地神・海路を守る神——光源氏の住吉信仰	23
2 王権の守護神	29
(1) 桐壺院の霊の住吉信仰	29
(2) 明石一族の住吉信仰	35
第三章 中世文芸に現れた住吉神	41
第一節 長門本・延慶本『平家物語』・『源平盛衰記』に現れた住吉神	41
1 長門本『平家物語』に現れた住吉神	41
(1) 子孫平安の守護神	41
(2) 和歌の神	44
(3) 王権の守護神	45
2 延慶本『平家物語』に現れた住吉神	46
(1) 王権の守護神	46
(2) 管弦の神・海路の守護神	47
(3) 管弦の神・現人神・王権の守護神の三重様相	49
3 『源平盛衰記』に現れた住吉神——王権の守護神	51
4 長門本・延慶本の共通記事に現れた住吉神	52
(1) 管弦の神	53
(2) 現人神・崇りの神	54
(3) 和歌の神・海路の守護神・王権の守護神・現人神の四重様相	55
第二節 お伽草子に現れた住吉神	57
1 『一寸法師』に現れた住吉神	57
(1) 子授けの神・氏神	57
(2) 住吉の神仏習合	59
(3) 一門繁盛の神	60
2 『酒吞童子』に現れた住吉神	61

	(1) 軍の神	61
	(2) 現人神	62
	3 『桜の中將』に現れた住吉神	64
	(1) 慈悲の神・再会の神	64
	(2) 現人神	66
	(3) 恋愛の神	68
	結び	71
	参考文献	73
	注	78
	第二編 賀茂神の変貌	87
	第一章 上代文芸に現れた賀茂神	89
	第二章 平安文芸に現れた賀茂神	95
	第一節 『大鏡』に現れた賀茂神——皇位と任官を司る神	95
	第二節 『源氏物語』に現れた賀茂神——ただすの神・王権の守護神	100
	第三節 『落窪物語』に現れた賀茂信仰——復讐の契機としての賀茂祭	106
	第四節 『うつほ物語』に現れた賀茂信仰	108
	1 兼雅物語に現れた賀茂信仰——出逢いの契機としての賀茂詣	108
	2 仲忠物語に現れた賀茂信仰——仲忠の人物造型と賀茂神話	110
	第五節 『狭衣物語』に現れた賀茂信仰	112
	1 賀茂神話の受容——若宮の人物造型と賀茂神話	112
	2 賀茂神の役割——狭衣の守護神（皇統の神）としての賀茂神	114
	(1) 源氏宮を齋院にさせる	114
	(2) 狭衣の出家を留めさせる	116
	(3) 狭衣を守り、帝即位に導く	117
	(4) 皇子誕生の祈願を成就させる	118
第三章 中世文芸に現れた賀茂神		121

第一節	覚一本『平家物語』に現れた賀茂神——任官を司る神	121
第二節	延慶本『平家物語』に現れた賀茂神	122
1	天皇の守護神	122
2	神(社)の代表	123
第三節	『源平盛衰記』に現れた賀茂神	125
1	現人神	126
2	神(社)の代表	126
3	行人の守護神	128
4	国家と家門の守護神	129
5	天皇の守護神	129
6	宝剣の守護神	130
第四節	覚一本・延慶本『平家物語』・『源平盛衰記』の共通記事に現れた賀茂神	131
1	任官を司る神・非礼を聞き入れない神	131
2	神(社)の代表	133
3	平安京の地主神	134
結び		137
参考文献		140
注		145
<b>第三編</b>	<b>伊勢神の変貌</b>	153
第一章	上代文芸に現れた伊勢神	155
第一節	大御神	155
第二節	太陽の女神(ヒルメの神)	156
第三節	崇りの神	160
第四節	皇祖神	161
第五節	太陽神・皇祖神の二重神格	164
第二章	平安文芸に現れた伊勢神	167
第一節	皇祖神	167

第三章 中世文芸に現れた伊勢神……………171

第一節 覚一本『平家物語』に現れた伊勢神……………171

- 1 神(社)の代表……………171
- 2 崇りの神……………172

第二節 延慶本『平家物語』に現れた伊勢神……………173

- 1 皇子の守護神……………174
- 2 皇祖神……………174
- 3 軍の神……………175
- 4 天皇の守護神……………176
- 5 帝位を司る神……………176

第三節 『源平盛衰記』に現れた伊勢神……………177

- 1 国主……………177
- 2 神(社)の代表……………179
- 3 皇祖神・皇子の守護神・顕現する神……………180

- 4 出世を司る神——宝剣の靈験譚……………181

- 5 国主・大日如来の垂迹……………184

- 6 帝位を司る神……………185

- 7 伊勢神の分身——燧・劍・鏡……………186

第四節 覚一本・延慶本『平家物語』・『源平盛衰記』の共通記事に現れた伊勢神……………188

- 1 皇祖神……………188
- 2 天皇の守護神……………190
- 3 軍の神……………192
- 4 伊勢信仰の具象化——伊勢公卿勅使……………194
- 5 神(社)の代表……………194
- 6 国主・崇りの神・皇子の守護神……………195

結び……………199

参考文献……………200

注……………204

第四編 八幡神の変貌	211
第一章 上代文芸に現れた八幡神——石清水八幡宮の縁起を中心に	213
第二章 平安文芸に現れた八幡神——『源氏物語』を中心に	219
第一節 玉鬘の登場と筑紫下向	220
第二節 玉鬘と八幡神	221
第三節 玉鬘と松浦	223
第四節 玉鬘の八幡・長谷信仰	228
第三章 中世文芸に現れた八幡神	233
第一節 『石清水物語』に現れた八幡神	233
1 伊予守の石清水八幡信仰	233
2 石清水八幡宮の役割	236
(1) 伊予守と木幡の姫君の逢瀬	236
(2) 木幡の姫君の入内阻止	238
第二節 延慶本『平家物語』に現れた八幡神	239
1 戦の神・征夷大將軍を司る神	240
2 第一に奉拝する神・「宿望」の成就神	244
3 頼朝(源氏)の守護神・権力の守護神	246
4 源氏の氏神・昇進に関わる神	248
第三節 『とはすがたり』に現れた八幡神	251
1 石清水八幡宮における神威の諸相	251
(1) 恒例参詣の神	251
(2) 神の代表	253
(3) 慈悲の神	255
(4) 衆生解脱の神	258
2 石清水八幡宮における加護の諸相	259
(1) 病氣平癒・安産祈願の対象	259



(2) 誓いの対象	262
(3) 布施を捧げる対象	264
第四節 『増鏡』に現れた八幡神	265
1 石清水八幡宮における神威の諸相	266
(1) 皇位継承を守護する神	266
(2) 国家の守護神	268
(3) 公祭「放生会」	270
2 石清水八幡宮における加護の諸相	271
(1) 安産祈願の対象	271
(2) 行幸の対象	273
結び	277
参考文献	280
注	287
第五編 春日神の変貌	305
第一章 上代文芸に現れた春日神	307
第二章 平安文芸に現れた春日神	311
第一節 氏神	311
第二節 入内祈願の対象	313
第三節 外戚政治実現を叶える存在	316
第三章 中世文芸に現れた春日神	319
第一節 『春日権現験記絵』巻一から巻七までの詞書に現れた春日神	319
1 春日神における神威の諸相	320
(1) 現人神	320
(2) 崇りの神	327
(3) 官位を司る神	330

	(4) 慈悲の神	334
	(5) 「南無春日大明神」	335
2	春日神における加護の諸相	336
	(1) 御幸の対象	336
	(2) 上皇・藤原氏の守護神	337
	(3) 病氣平癒祈願の対象	340
	(4) 天狗追放の対象	343
	(5) 往生(菩提)の道を求める対象	344
第二節	『春日権現験記絵』巻八から巻一五までの詞書に現れた春日神	346
1	春日神における神威の諸相	346
	(1) 本地清涼寺	347
	(2) 現人神	348
	(3) 崇りの神	358
	(4) 慈悲の神	363
	(5) 官位を司る神	364
	(6) 地藏菩薩	365
2	春日神における加護の諸相	367
	(1) 異形追放の対象	367
	(2) 出離の道を求める対象	368
	(3) 病氣平癒祈願の対象	369
	(4) 安産祈願の対象	373
第三節	『春日権現験記絵』巻一六から巻二〇までの詞書に現れた春日神	374
1	春日神における神威の諸相	374
	(1) 現人神	374
	(2) 本地釈迦	381
	(3) 慈悲の神	383
	(4) 神火	386
2	春日神における加護の諸相	387
	(1) 「南無春日大明神」	388
	(2) 病氣平癒祈願の対象	389

結び ..... 391

参考文献 ..... 394

注 ..... 398

第六編 天神の変貌

第一章 平安文芸に現れた天神

第一節 「日本太政威徳天」 ..... 409

第二節 「天満大自在天神」 ..... 414

第三節 「文道の祖」 ..... 416

第四節 「権者の化現」 ..... 417

第二章 『北野天神縁起』に現れた天神

第一節 託宣場面に現れた天神

..... 421

..... 422

1 怨霊 ..... 422

2 慈悲の神 ..... 425

3 賞罰を明らかにする神 ..... 426

第二節 利益場面における天神の様相 ..... 427

1 摂関家の守護神 ..... 427

2 天満大自在天神 ..... 428

3 詩文の神 ..... 429

4 皇基の守護神・慈悲の神 ..... 431

5 無実を晴らしてくれる神 ..... 432

6 恥をすすいでくれる神 ..... 433

7 怨霊 ..... 435

第三章 中世文芸に現れた天神

第一節 覚一本・延慶本『平家物語』・『源平盛衰記』の共通記事に現れた天神——詩文の神 ..... 437

第二節 『源平盛衰記』に現れた天神——現人神 ..... 439

第三節 延慶本『平家物語』に現れた天神

1 詩文の神	442
2 皇基・国家の守護神	444
3 怨霊・慈悲の神	446

結び

参考文献

注

初出一覧

あとがき

索引

442
442
444
446
451
455
459
467
473
477

凡 例

- 一 引用テキストの書誌情報は初出の際に注で示すこととし、初回以降の重出については、原則的に省略し、巻数及び頁数だけを示した。
- 一 漢文資料において、引用テキストに句読点や返り点などが付されている場合、そのまま引用した。ただし、読み下しに際しては、必ずしもそれらに依らず、私見により読み下したところがある。
- 一 和文資料について、引用テキストに筆者が句読点・濁点などを付した場合がある（本文の各該当箇所においてそれを示した）。
- 一 便宜上、新訂増補国史大系を「国史大系」と、日本古典文学大系を「大系」と、新日本古典文学大系を「新大系」と、新編日本古典文学全集を「新編全集」と略する場合もある。